

平成25年度

春日市文化財年報

2015

春日市教育委員会

平成 25 年度
春日市文化財年報

2015

春日市教育委員会

序

春日市は福岡都市圏の中央部に位置しています。昭和40年代以降、福岡都心部に近い地理的条件と高い交通の利便性のもとで、福岡都市圏における住宅都市として成長してきました。その結果、昭和47年制施行以来、人口は増加の一途をたどり、現在の人口は約11万人に達し、九州でも人口密度の高い市となっています。今後の将来都市像として「住みよさ発見 市民都市かすが」と定め、誰もが住みよいまちの実現に向けてまちづくりを推進しています。

本市が位置する福岡平野は、古くから中国大陸や朝鮮半島との交流の玄関口として栄えてきました。なかでも春日市の中央部にある春日丘陵とその周辺一帯には弥生時代の遺跡が密集し、中国の歴史書である『後漢書』や『魏志』倭人伝に記された「奴国」の中心地であったとされています。

春日市奴国の丘歴史資料館では、郷土の貴重な文化財を保護、活用し、後世へ伝え残すための様々な事業を行ってきました。本市の歴史や遺跡及び関連施設について市民のみなさまに広く知っていただくため実施してきた奴国の丘フェスタも3年目となりました。

本書は平成25年度に実施いたしました埋蔵文化財の調査及び、奴国の丘歴史資料館の事業の概要をまとめたものです。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

また、最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御理解御協力をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

平成27年3月31日

春日市教育委員会
教育長 山本直俊

目 次

I	埋蔵文化財保護事業の現状と組織	1
II	発掘調査の概要	2
1	浦田遺跡（7次調査）	2
2	ケン牛遺跡（1次調査）	5
3	御陵遺跡（3次調査）	8
4	九州大学・御供田遺跡（5次調査）	11
5	野藤遺跡（7次調査）	14
6	九州大学・御供田遺跡（6次調査）	17
III	文化財普及啓発事業	20
1	企画展示	20
①	奴国写真館展	20
②	考古企画展「奴国のムラ～くらしと技術～」	20
③	民俗企画展「人と道具と米作り」	20
2	やきものづくり教室	20
3	歴史散歩	21
4	歴史講座	21
5	子ども歴史クラブ（歴史体験教室）	22
6	奴国の丘フェスタ	23
7	学習支援活動	23
8	出前講座等	23
9	図書館協働事業	23
10	博物館実習生受け入れ	23
11	ボランティア組織	24
12	資料貸出	24
13	入館者数	24
14	利用案内	24

例 言

- 1 本書は、春日市教育委員会文化財課が、平成25年度に行った文化財事業の概要をまとめたものである。
- 2 本書の作成は、担当者が分担して行った。
- 3 本書に使用した各種図版の作成は、水上愛子、柏木千恵が行った。
- 4 本書に使用した写真の一部は、(有)空中写真企画の撮影による。
- 5 発掘調査の概要については、文末に報告者名を記した。

I 埋蔵文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和 52 年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を発足させ、整備しながら今日に至った。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるため、事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については発掘調査による記録保存を行っている。

平成 25 年度の開発事前審査における文化財有無の問い合わせ件数は 1,227 件、事前審査のうち試掘・確認調査は 93 件であり、前年度の件数と比較すると、問い合わせ件数はほぼ同数で、試掘・確認調査件数は微増である。開発内容では共同住宅建設が 20 件 (27%)、個人住宅建設が 29 件 (34%) で、宅地造成の 13 件を含めると申請件数の約 8 割が住宅建設に伴うものである。このうち埋蔵文化財が確認され、文化財保護法第 93・94 条の規定に基づき本調査を行うことになったものは 5 件、工事立会で対処したものは 39 件、慎重工事で対処したものは 35 件である。また、試掘調査の成果から包蔵地の範囲拡大をした遺跡が 4 件である。

史跡の保全、整備においては、弥生時代を代表する遺跡である須玖岡本遺跡を後世に継承していくことを目的として史跡指定を行ってきた。25 年度は前年度に指定申請を行った 4 件 (5 筆) が追加指定された。また、市内の主要な遺跡や指定文化財に設置している案内板の老朽化が顕著なものについて 17ヶ所を改修した。

文化財普及啓発事業では資料館事業を中心に、企画展や体験教室等を行った。奴国の丘フェスタも 3 年目となり、地域住民と協働して行うために実行委員会を立ち上げ、市民目線の意見を取り入れながら実施した。この他、市内小学校の授業や自治会主催のイベント支援、他博物館資料館への資料の貸出等、文化財の活用に努めた。

平成 25 年度の文化財行政にかかる組織の体制は次の通りである。

教 育 長	山本 直俊			
社会教育部長	中野 又善			
文化財課長	又吉 淳一			
管 理 担 当	統括係長	上野 志保	文化財担当	課長補佐 中村 昇平
	主 査	伊藤かおり	主 査	吉田 佳広
	主 事	佐伯 廣宣	主 査	森井千賀子
	嘱 託	平島 善信	主 査	井上 義也
			嘱託職員	柳 智子
			嘱託職員	足立 紫穂
			嘱託職員	井上 剛
			嘱託職員	上原 あい (~2月)

II 発掘調査の概要

1 浦田遺跡（7次調査）

所在地 春日市須玖南3丁目 115・117番

調査面積 87m²

調査期間 2013年5月13日～6月5日

浦田遺跡は春日丘陵の西側から福岡市にかけて広がる台地上に位置する。当遺跡ではすでに6次にわたる調査が行われており、弥生時代～中世にかけての集落や墓地が確認されている。ただし、大規模な調査は、ほとんど行われていないため、今後の調査によっては、新たな発見が期待される遺跡である。

また、今回調査した7次調査地点は浦田遺跡の南端部にあり、道路を挟んだ南側には古野ノ上遺跡が存在する。ただし、古野ノ上遺跡についても実態がほとんど分かっていないため、今後の調査によっては浦田遺跡と同一の遺跡になる可能性も考えられる。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (東から)

7次調査は宅地造成に伴う緊急発掘調査であり、対象地内の遺跡が確認され、開発により破壊を受ける東部を中心に調査区を設定した。

遺構・遺物

対象地は、すでに宅地として利用されており、周辺部についても地形が改変され畑として利用されていた。このため攪乱を受けた部分が多くかったが、弥生時代の竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑1基、中世の溝1条と多数のピットを確認した。以下では、主なものについて述べる。なお、遺構の検出面は標高20m前後である。

弥生時代の竪穴住居跡は調査区南部で検出し、南・西部を削平されていた。土器や石塊が出土し、弥生時代終末期のものと分かった。掘立柱建物跡は住居跡下で検出したものである。柱穴の規模や深さなどから、3つのピットを掘立柱建物の柱穴と判断したが、調査区外まで延びるため全体像は不明である。周辺の状況から考えて弥生時代後期のものであろうか。中世の

溝は調査区北端部で検出し、東西方向に延びる。北壁は調査区外になるため、溝幅は明らかではなく、壁の立ち上がりから推測すれば1.2m前後となる。深さは1.2mである。壁の立ち上がりが急であることや土層観察などからは水路とは考えられないことから、何らかの施設の区画溝の可能性がある。ピットは出土遺物が少ないが、殆どは弥生時代のものと思われる。大型のものが含まれるために上述した以外にも掘立柱建物跡の存在が推測できるが、調査区内では明らかにすることはできなかった。

小 結

浦田遺跡では、小規模な調査しか行われておらず、遺跡の性格については、ようやく近年明らかになってきている。前述したように当遺跡の南側には古野ノ上遺跡があり、両遺跡の関係を明らかにしていく必要がある。また、さらに南側の福岡市弥永原遺跡では副葬品を伴う弥生時代後期の墳墓群やガラス勾玉鑄型、北側の御陵遺跡、野藤遺跡では複数の青銅器鋳造関連遺物や前方後円墳も確認されているため、今後の調査に期待される点が多い。

(井上)



3. 1号住居跡（南から）



4. 1号溝南北土層（東から）



5. 遺構配置図 (1/80)

2 ケン牛遺跡（1次調査）

所 在 地 春日市小倉5丁目70番

調査面積 76.9m²

調査期間 2013年5月31日～7月9日

春日市の中央部に位置するケン牛遺跡は須玖遺跡群の一角を占める遺跡であり、春日丘陵中央部付近の緩斜面上に立地している。当地付近は旧地形図などから遺跡の存在は推測されていたが、発掘調査が行われたことはなく、平成19年の試掘調査によって遺跡の存在が確認された。

当調査が行われるまでは遺跡の性格などはほとんど分かっていなかったため、周辺にある袖ノ木A遺跡や仁王手A遺跡などから弥生時代中～後期の集落が検出されることを念頭に調査を行った。

今回の調査は個人専用住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (南西から)

遺構・遺物

確認調査では多くの土器が出土しており、弥生時代の包含層が確認されていた。当地はすでに宅地や畑地として利用されており、数十cmの表土や耕作土を除去すると北側では赤～黄褐色の地山を検出し、遺構が確認された。しかしながら、調査区中央部付近では、弥生時代の包含層が確認され、そこから遺構が掘り込まれていた。今回の調査で検出した遺構は竪穴住居跡3軒、土坑5基、溝2条と多数のピットである。以下では、主な遺構について記述する。なお、遺構検出面の標高は30m前後である。

住居跡は調査区の中央から西部にかけて3軒を検出した。中央部に位置する1号住居跡は全体を確認することができた。平面形は方形で、北壁に沿ってベッド状遺構が設置されており、ベッド状遺構の上から刀子と思われる鉄器が出土した。主柱穴は南北方向に2つが確認され、その間に炉跡がある。貼り床下には両主柱穴を結ぶような溝状の土坑が掘り込まれていた。炉



3. 1号住居 土器出土状態（南から）

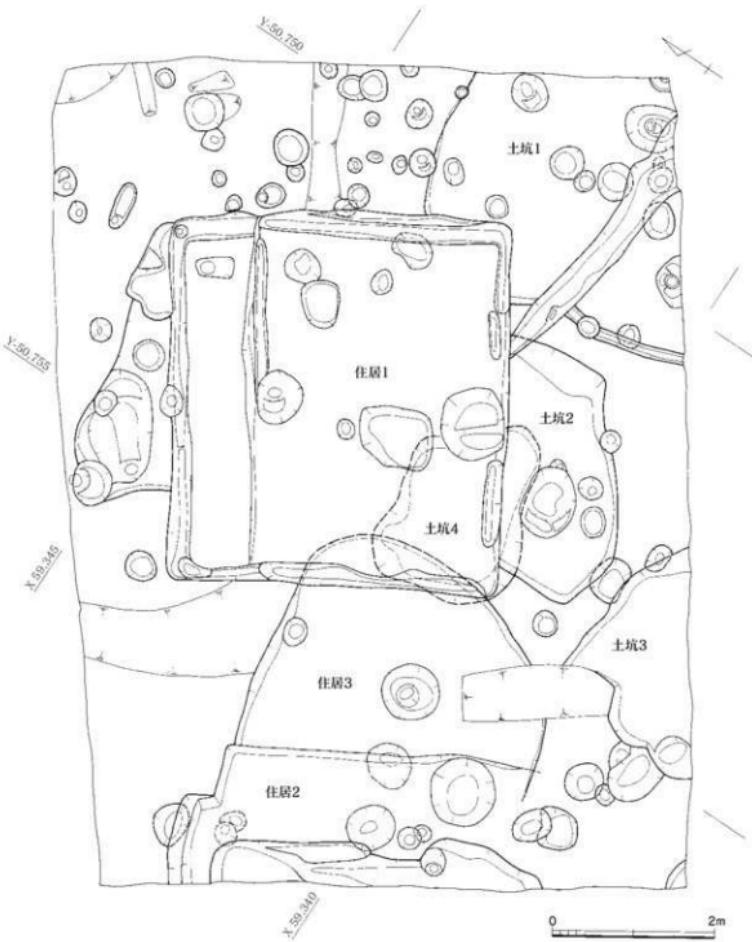


4. 1号住居 壺出土状態（西から）

の下であることや当地が大変水捌けの悪い土地であることを考慮すれば、防湿を目的とした施設の可能性がある。完形に復元できるような土器が出土し、弥生時代終末期の住居と分かる。2号住居跡は調査区西壁付近で検出した。多くが調査区外にあるために詳細は不明だが、出土土器から1号住居跡と同様に弥生時代終末期の住居と考えられる。3号住居跡は1・2号住居跡に切られていた。残存部が少なく、土器も少量のために詳細は不明であるが、中期まで遡る可能性がある。土坑のうち1・2・4号土坑は弥生時代。3号土坑は残りが悪いが黒色土器が出土するため中世と考えられる。

小 結

上述したようにケン牛遺跡は、新たに確認した遺跡であり、今回の調査は小規模なものではあったが、弥生時代を中心とする遺物・遺構を確認することができた。ケン牛遺跡は須玖遺跡群の一角を占めており、今後、遺跡がどこまで遡り、どのような遺構が確認されるのかを注目したい。（井上）



5. 遺構配置図 (1/60)

3 御陵遺跡（3次調査）

所 在 地 春日市須玖北9丁目85番・118番の一部

調査面積 243.2m²

調査期間 2013年7月23日～9月17日

御陵遺跡は、須玖遺跡群が所在する春日丘陵の西側に広がる台地の北端部に存在する。平成2年と平成20年に発掘調査が行われ、弥生時代～古墳時代を主体とする遺跡が確認された。特に弥生時代に関しては、青銅器鋳型、銅矛中型、埴輪／取瓶、轆送風管、銅滓などの青銅器鋳造関連遺物が出土するため、当遺跡内

に未確認の青銅器工房が存在することは間違いない。なお、当遺跡の北端部には前期古墳の可能性がある御陵古墳がある。

今回の調査は商業施設建設前の造成工事に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

3次調査は御陵遺跡の北端部に当たり、目と鼻の先に御陵古墳が存在する。北側は水田として活用され、低地となっており、当地が台地の北端部であることが分かる。重機を使用し、20cm程度の表土を取り除くと赤褐色粘質土を主体とする地山面を検出し、黒褐色土を覆土とする掘立柱建物跡4棟



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景

以上、井戸 1 基、溝 6 条、多数のピットを検出した。なお、遺構検出面の標高は 16 m 前後である。

確認した 4 棟の掘立柱建物跡は弥生時代のもので、確認できたものは 1 間 × 2 間の建物である。この他にも大形のピットが数基存在するため、4 棟以上の掘立柱建物が存在するものと考えられる。1・2 号掘立柱建物跡は近代まで使用された溝の西側で検出した。1・2 号掘立柱建物跡は重なっており、1 号は 2 号を若干広げたような配置をとるため、建て替えと考えられる。

井戸は素掘りで、平面形が径 1 m の円形、深さは 2.5 m 程度であった。底面近くからは祭祀に使ったと考えられる弥生時代後期の甕や手捏土器などが出土した。

6 条の溝のうち、3 号溝は調査区中央南で検出した弥生時代の溝である。溝としたが、調査区外まで延びるために土坑の可能性もある。出土土器が乏しいため詳細な検討は難しい。当溝か

らは銅鐸の型を彫り込んだ鋳型が 2 片出土した。2 片は接合する鐸の裾部の破片である。風化が著しく、不明瞭ではあるが文様のようなものもあるため、鐸形銅製品とした方が良いのかも知れない。4 号溝は弥生時代終末～古墳時代初頭の溝であり、上層から武器鋳型の小片が出土した。その他に溝については、須恵器小片が出土するため、歴史時代のものと考えられる。なお、上述した 2 点の鋳型以外にも攪乱などから、銅矛鋳型と不明銅製品、合計 4 点の鋳型が出土した。

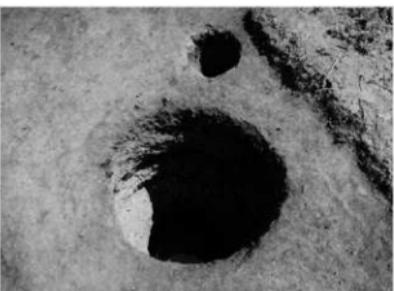
小 結

御陵遺跡は、過去の調査でも複数の青銅器鋳型が出土しており、今回の 3 次調査でも 4 点の出土があった。今後の調査によって、当遺跡において青銅器工房が確認される可能性は高い。そうすれば、奴国の大官営工房と称される須玖岡本遺跡坂本地区との比較・検討の必要が生じ、両遺跡の性格も明らかになるだろう。

(井上)

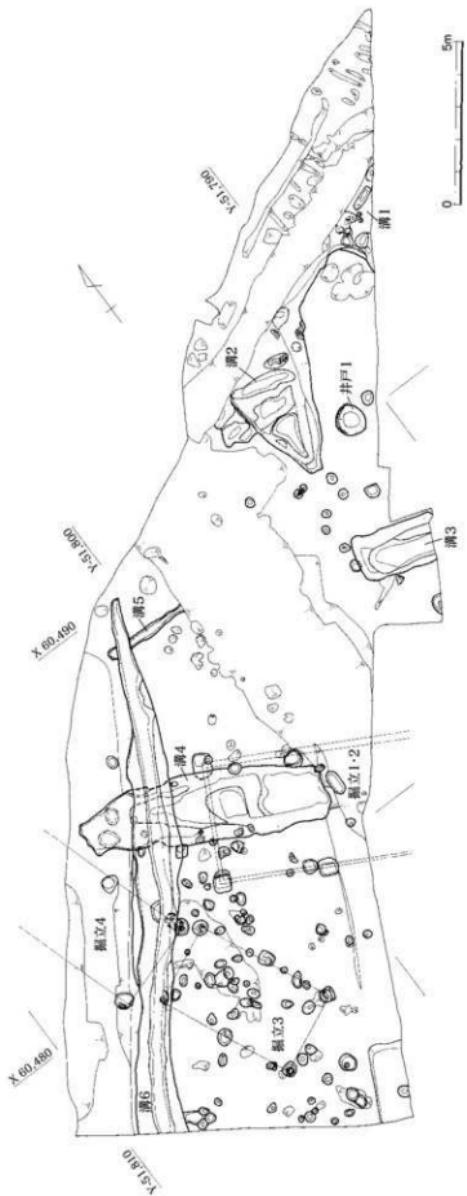


3. 1・2 号掘立柱建物跡（南から）



4. 1 号井戸（西から）

5. 遺構配置図 (1/150)



4 九州大学・御供田遺跡（5次調査）

所 在 地 春日市春日公園5丁目13番

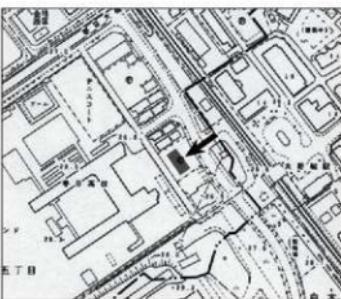
調査面積 301.81m²

調査期間 2013年10月31日～12月27日

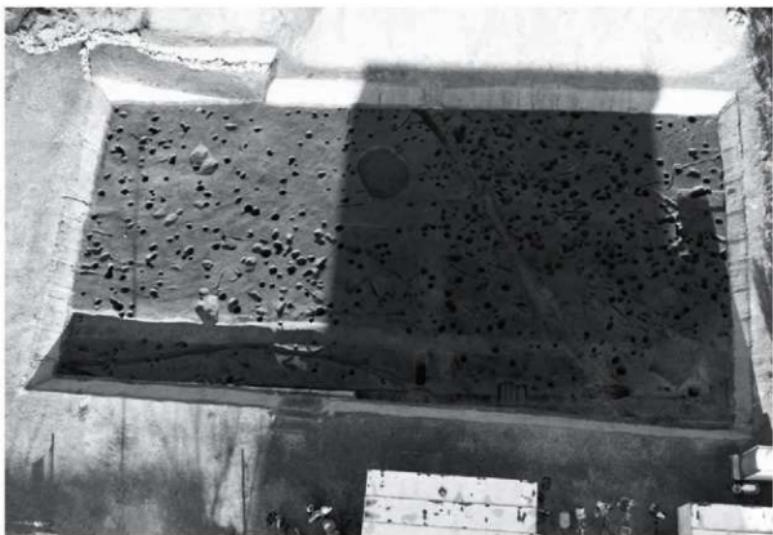
九州大学・御供田遺跡は市域の東部で、5次調査地点は牛頭川右岸の丘陵北端の低位段丘上に位置し、標高26.8mを測る。これまでの周辺における調査では、弥生時代の斐柏墓群や弥生時代から古代にかけての住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝などが確認されている。

今回の調査地点は当遺跡の東部にあたり、1978年に福岡県教育委員会によって調査された御供田遺跡第3地点C地区の西側に隣接する。このときの調査では竪穴住居跡8軒、土坑9基、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構が22条検出されている。遺構の時期は7世紀前半から12世紀で、特筆するものとして7世紀前半の竪穴住居跡から円面鏡が出土している。

今回の調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が東）

遺構・遺物

1号土坑は調査区の北西隅でごくわずかに遺構の一部を検出したため断定はできないが、竪穴住居跡の可能性も考えられる。2号土坑は長軸2.5m、短軸2.1mの楕円形を呈し、深さ60cmである。土師器、須恵器の他に焼土が多く出土したことから検出当初は土器焼成遺構の可能性を考えた。しかし、土坑の壁や床面は焼けておらず、焼土も床面から約20cm上のところまでまとまっていたことから、廃棄土坑と思われる。

1号溝状遺構は調査区の北東部で、南北方向に延び、途中で浅くなり途切れる部分がある。幅約20cm、深さは南側で約10cm、北側で約12cmと高低差はほとんどない。2号溝状遺構は幅約30cmで、北西—南東方向に延びる。直線的ではなく、ゆるやかに弧状を描く。深さは南東側で約24cm、北西側で約39cmである。出土遺物には土師器があり、時期は10世紀頃と考えられる。調査区の中央で検出した4号溝状遺構は幅約60cm、深さ55cmで、やや南北方向に直線的に延び、出土遺物はほとんどない。土層断面の観察から1度掘り直されたと考えられる。この他、ピットを多数検出し、掘立柱建物跡が複数棟あると考えられるが、断定できるものはない。

小 結

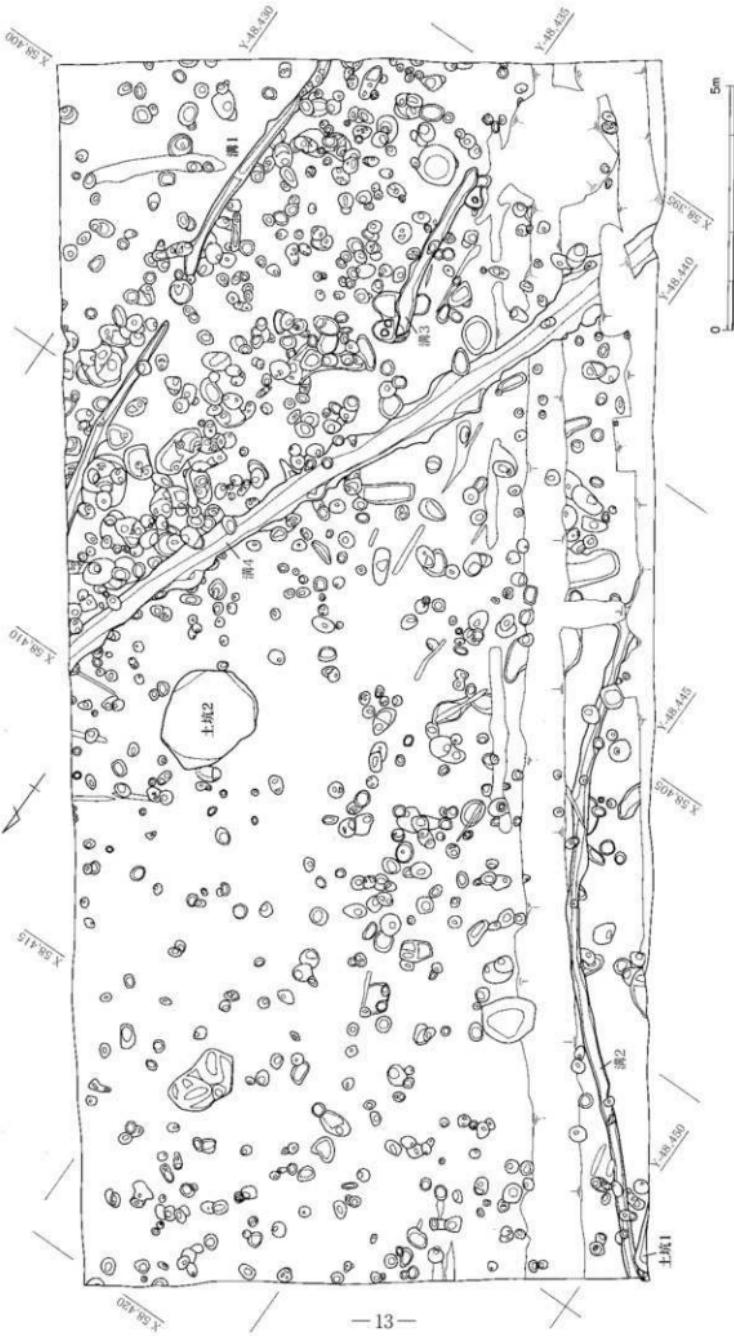
本調査地点は検出した遺構、遺物から平安時代の集落の一部であると考えられる。東側に隣接する大野城市的御供田遺跡でも平安時代の遺構が確認されている。大野城市御供田遺跡4次調査で確認された区画を示すと考えられる溝の形状が4号溝の形状とよく似ており、同時期の集落が広がるものと推測される。

(森井)



3. 2号土坑（西から）

4. 連續記圖 (1/100)



5 野藤遺跡（7次調査）

所在 地 春日市須玖北 9 丁目 158 番

調査面積 99.3m²

調査期間 2013 年 12 月 4 日～ 12 月 21 日

野藤遺跡は、春日市西側の台地に存在する弥生時代～歴史時代の遺跡である。特に弥生時代と古墳時代の墳墓や集落が多く調査されており、1 次調査では、墳丘が削平のために消滅する 5 世紀末の前方後円墳の周溝が確認され、多くの埴輪が出土した。2 次調査では弥生時代中期の甕棺墓を主体とする墳墓が調査された。5 次調査では弥生時代後期の墳墓や、古墳時代後期の土壙墓と考えられる遺構を調査し、多くの須恵器が出土した。集落は、3 次調査で古墳時代前期の住居跡を検出し、弥生時代の集落については各調査で、確認されている。なお、後世の遺構や擾乱からの出土ではあるが、弥生時代の青銅器鋳型小片が出土するため、今後、青銅器工房が確認される可能性がある。

今回の調査は個人専用住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (東から)

遺構・遺物

今回の調査地は、野藤遺跡の北部の西端に位置する。調査前は野菜畑として利用されていたが、近隣の住民によるとかつては梅林で、畑にする時に重機を使い梅の木を抜根したということであった。その時にはかなりの土器が出土したようで、実際に多くの土器を表面採集することができた。重機を使用し、表土や耕作土を除去すると、赤～黄褐色粘質土の地山に達した。梅の木が植えられていた場所には、地山まで達する多数の掘り込みが確認できた。このため多くの遺構は破壊を受けていたが、竪穴住居跡2軒と溝1条、ピットを確認することができた。なお、遺構検出面の標高は16m前後である。

1号住居跡は調査区の東端部で検出した。大部分は搅乱を受けていたが、多くの土器が出土し、主柱穴も確認することができた。2号住居跡は調査区中央部で確認した。1号住居跡同様に著しい搅乱を受けていたが、住居内の土坑からは高环などが出土した。両住居跡は何れも弥生時代終末期の住居跡である。溝は調査区中央部から西側に延び調査区外にいたるものである。土器はほとんど出土してはいないが、覆土の状態から考えて弥生時代のものであろう。

小 結

7次調査では、弥生時代の集落を確認することができた。野藤遺跡の中でも当地周辺は調査が行なわれておらず、どのように土地利用されたかは不明であった。今回、住居跡が検出されたことで、当地周辺には集落が広がっていることが明らかになった。

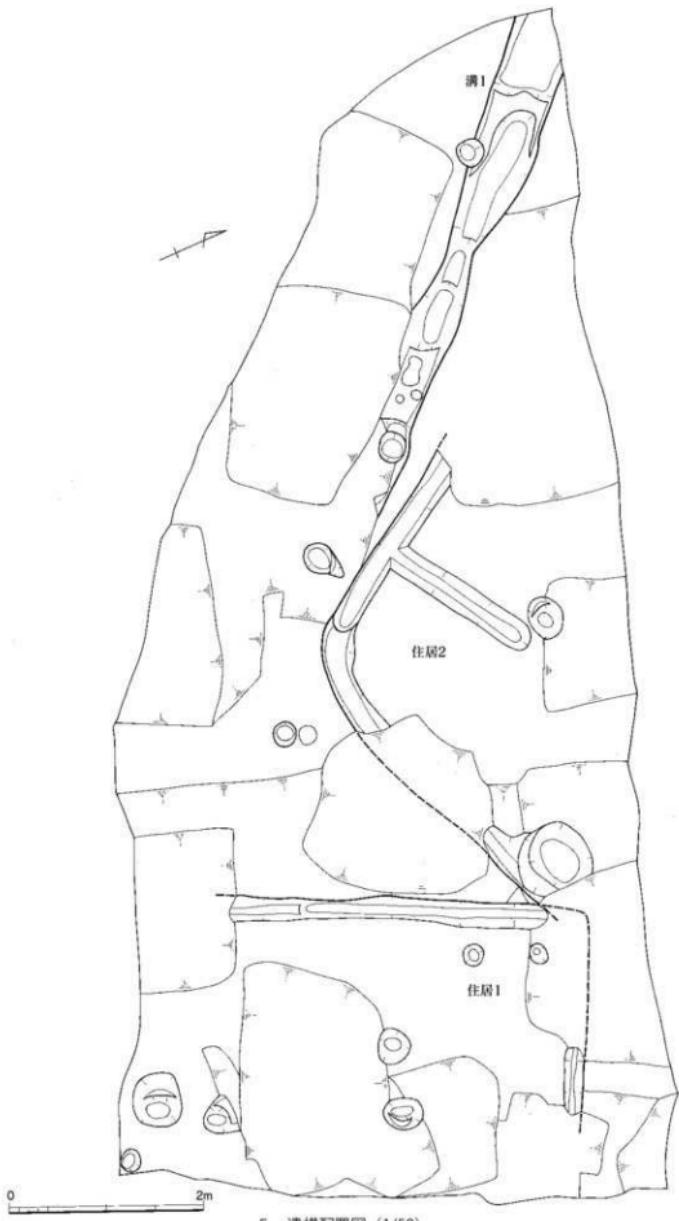
(井上)



3. 1号住居跡（東から）



4. 2号住居跡 屋内土坑土器出土状態（東から）



5. 遺構配置図 (1/50)

6 九州大学・御供田遺跡（6次調査）

所 在 地 春日市春日公園6丁目2番1の一部

調査面積 293m²

調査期間 2014年1月20日～3月21日

九州大学・御供田遺跡は春日市東南部から大野城市にかけて広がる弥生時代～歴史時代にかけての遺跡である。春日市文化財課では、過去に5回の調査を行ったが、何れも北部の調査であった。今回の調査地は遺跡の南部で、大野城市との市境にあたり、開発対象地の内の春日市側を春日市教育委員会が、大野城市側を大野城市教育委員会が行なった。事前調査では、弥生時代前期の貯蔵穴と考えられる大形の土坑を確認していた。今回の調査は自衛隊の施設建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

前述したように6次調査地は、5次調査までは異なり遺跡の南部で行なった。当地は丘陵の西側斜面であり、北側は九州大学筑紫キャンパスと接する。戦後以前の土取りであろうか、丘陵はところどころ削られており、改変を受けている。

重機を使用し、丘陵の斜面の表土を除去すると花崗岩風化土壌の地山に達し、そこに土坑5基、横穴墓1基、土壙墓1基、溝1条、

ピットを検出した。以



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (西から)

下では、主なものについて述べる。なお、遺構検出面の標高は 41 m 前後である。

土坑は 5 基共に小片だが弥生時代前期の土器が出土した。このうち 3 ~ 5 号土坑は平面形の直径が 2 m を超えるようなものである。3・4 号土坑の上部は削平を受けており浅くなっているが、周辺の地形や 5 号土坑から考えて本来の深さは 2 m 以上であろう。規模や形状から弥生時代前期の貯蔵穴と言えよう。横穴墓は斜面下方に立坑状の前庭部を掘り、斜面上方側へ羨道と玄室を横穴状に掘るものである。玄室の天井は崩落しており、検出時は 2 基の別の土坑の切り合いに見えた。羨門は 2 枚の石で閉塞しており、羨道と玄室床面には赤色顔料が施されていた。なお、壁面は崩落のため残りが悪いが、玄室の全面には赤色顔料が塗布されていたと思われる。玄室床面には、鉄刀 1 、鉄鎌 5 度程、曲刃鎌 1 が副葬されており、土器の副葬はない。溝状遺構はこの横穴墓の上方に弧を描くように検出した。このため横穴墓との関連が想定でき、当横穴墓が墳丘と周溝を有していた可能性がある。なお、溝検出時に内面がナデ消された須恵器甕の破片が出土した。横穴墓が単独で存在すること、副葬品に土器がないこと、玄室に赤色顔料を施すこと、墳丘を持つ可能性があることなどから古式の横穴墓の可能性があり、上述した須恵器片の時期とも矛盾はない。また、近接する土壙墓は遺物が出土していないために、形状からの判断ではあるが、横穴墓に付属する小児用の墳墓の可能性があるのでなかろうか。

小 結

6 次調査では貯蔵穴や横穴墓を調査することができた。特に横穴墓については、恐らく狭義の福岡平野において、状態の良い横穴墓を調査した初の例ではなかろうか。丘陵頂部の大野城市側の調査では弥生時代の貯蔵穴と共に、古墳時代の墳墓も確認されており、横穴墓との関係が興味深い。

(井上)



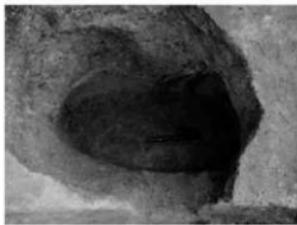
3. 3・4号土坑（南東から）



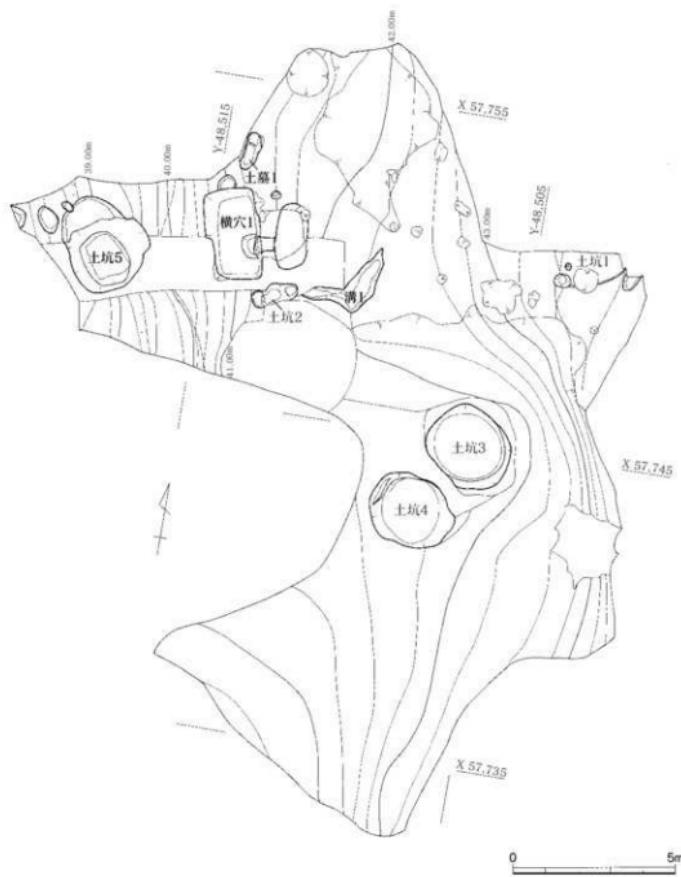
4. 1号横穴墓（西から）



5. 1号横穴墓閉塞除去状況（西から）



6. 1号横穴墓鐵器出土状況



5. 遺構配置図 (1/150)

III 文化財普及啓発事業

1 企画展示

① 奴国写真館展

会期 平成 25 年 7 月 1 日（月）～8 月 31 日（土）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 2,575 人

② 考古企画展

テーマ 奴国のムラ～くらしと技術～

会期 平成 25 年 9 月 28 日（土）～11 月 3 日（日）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 2,148 人

関連講演会

日時 平成 25 年 10 月 5 日（土）14:00～16:00

演題 奴国の村と都市

講師 武末純一氏（福岡大学教授）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 57 人

③ 民俗企画展

テーマ 人と道具と米作り

会期 平成 26 年 1 月 11 日（土）～3 月 2 日（日）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 2,310 人

関連講演会

日時 平成 26 年 2 月 1 日（土）14:00～16:00

演題 牛頸村から春日村に嫁いだ農婦の記録

講師 山田 稔氏（近世地方文書研究会会長）

会場 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 45 人

2 やきものづくり教室

毎月第 2 土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各 1 回やきものづくり教室を実施しました。（8、3 月は中止）。

参加者（年 20 回実施）合計 189 人



奴国写真館展ポスター



考古企画展関連講演会



民俗企画展展示風景



民俗企画展開催イベント



民俗企画展関連講演会

3 歴史散歩

第1回	日 時	4月 20日（土） 9:00～16:30
	コース	糸島市二丈地区唐原山 雨天中止
第2回	日 時	5月 18日（土） 9:40～15:00
	コース	那珂川町観音山
	参加者	40人
第3回	日 時	6月 1日（土） 9:00～12:00
	コース	須玖岡本遺跡群
	参加者	31人
第4回	日 時	10月 12日（土） 8:30～15:00
	コース	大野城跡
	参加者	17人
第5回	日 時	10月 19日（土） 9:40～15:00
	コース	糸島市二丈地区唐原山
	参加者	40人
第6回	日 時	12月 14日（土） 9:00～16:30
	コース	春日市・那珂川町の古墳
	参加者	19人
第7回	日 時	3月 22日（土） 9:30～13:00
	コース	白水八幡宮界隈の石造物
	参加者	23人



やきものづくり教室



第2回歴史散歩



第3回歴史散歩



第4回歴史散歩



第6回歴史散歩

4 歴史講座

第1回 「須玖遺跡群」

日 時	10月 26日（土） 14:00～16:00
参加者	8名

第2回 「大水城と小水城」

日 時	11月 23日（土） 14:00～16:00
参加者	12名

第3回 「石造物を探る」

日 時	12月 7日（土） 14:00～16:00
参加者	6名

5 子ども歴史クラブ（歴史体験教室）

第1回 「石器（石庖丁）づくり」

日 時 8月3日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館 実習室

参加者 22名



石庖丁づくり

第2回 「昔の遊び道具（竹の玩具）つくり」

日 時 8月10日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館 実習室

参加者 11名



竹の玩具つくり

第3回 「草木染め体験」

日 時 8月24日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館

参加者 29名



草木染め体験

第4回 「石臼による粉引き体験」

日 時 10月5日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館

参加者 15名



粉引き体験

第5回 「お手玉・どんぐり駒作り」

日 時 11月16日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館

参加者 24名



しめ飾りづくり

第6回 「しめ飾りづくり」

日 時 12月21日（金） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館

参加者 26名

第7回 「羽根つき・餅つき体験」

日 時 1月18日（土） 9:00～12:00

場 所 奴国の丘歴史資料館

参加者 31名

6 奴国の丘フェスタ

春日市には弥生時代の重要な遺跡が密集し、後漢書に記された「奴国」(なこく)の中心地であったとされています。そうした歴史や遺跡を市民に広く周知し、理解を深めてもうることにより、都市化の中で失われつつある郷土への愛着や誇りを育むことを目的として、歴史資料館の機能と、隣接する歴史公園の景観を活かした様々なイベントを行いました。

日 時 9月 28 日 (土)

会 場 奴国の丘歴史資料館、歴史公園一帯



奴国の丘フェスタ



奴国の丘フェスタ 火爐し体験



学習支援活動

7 学習支援活動

小学校の授業の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施しました。

市内小学校 30件

市内中学校職場体験 3 件

8 出前講座等

小学校の授業や自治会が開催するイベント等への支援を行いました。

自治会等 12 件



学習支援活動

9 図書館協働事業

図書館内に考古資料を展示し、市内遺跡の出土遺物とあわせて、資料館事業の紹介を行いました。また、歴史資料館の企画展示をより楽しんでいただけるよう、図書館で企画展に関連する書籍の紹介を行いました。



博物館実習生による展示

10 博物館実習生受け入れ

2 大学 3 名の実習生を受け入れました。

期間 8月 19 日(月)～8月 29 日(木)のうち 10 日間

11 ボランティア組織

奴国の丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う資料館ガイドボランティアと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが組織されています。

資料館ガイドボランティア	31名
やきものボランティア	17名



博物館実習

12 資料貸出

考古資料	2件
古文書	1件
写真資料	16件



やきものボランティアによる作品展示

13 入館者数

奴国の丘歴史資料館	15,698人
ウトグチ瓦窯展示館	1,334人

14 利用案内

開館時間	午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日	毎月第3火曜日（休日にあたる場合はその翌日）
観覧料	年末年始（12月28日～1月4日）
駐車場	無料（特別展では有料の場合あり）
お願い	館内は禁煙 その他、係員の指示に従って下さい。
交通アクセス	JR鹿児島本線 南福岡駅より徒歩15分 西鉄天神免大牟田線 雜餉隈駅より徒歩25分 九州自動車道 太宰府インターより5km 春日市コミュニティバス ① 桜ヶ丘線 奴国の丘歴史資料館下車徒歩1分 ② 須玖線 岡本1丁目下車徒歩5分

平成 25 年度
春日市文化財年報

発 行 日 平成 27 年 3 月 31 日
編集・発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5
印 刷 正光印刷 株式会社
福岡市西区周船寺 3 丁目 28 番 1 号

